

令和7年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立三間中学校

1 自己評価書

教育目標						力強く夢に向かう生徒の育成						
基本方針						確かな学力の向上と地域とつながる教育活動の推進						
本年度重点目標						1 豊かな心・健やかな体 2 確かな学力の定着と向上 3 学校・家庭・地域・行政が一体となった教育						
評価項目		評価小項目		評価の観点		評価資料		評価		評価		
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。		・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施				後期のみ			
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート		A B A		B			
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。		・教師アンケート ・児童生徒アンケート		A A		A			
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート		B C A		B			
			家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート		C C B		C			
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート		C D C		C			
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート		A C A		B			
	(成果と課題) 生徒はタブレットの使用に慣れ、自分の考えをまとめたり、教師の提示した課題を解決したりできるようになっている。本校はICTに堪能な教員が多く、職員間で学び合える環境も整っている。ICTの効果的な活用により、一人一人の見取りがより可能になり、学習効果を実感しているが、家庭と協働することについてはまだ不十分である。											
	(改善策等) 家庭との協働や個別最適な学びを提供するには、学級担任と教科担任が連携する必要がある。家庭学習の内容や提出状況を把握しながら、困り感を抱いている生徒に対応していきたい。また、総合的な学習の時間やボランティア活動の中で地域と関わっていることをホームページや通信でもっと紹介していきたい。											
	評価項目		評価小項目		評価の観点		評価資料		評価		評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート		A A A		A			
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート		A A A		A			
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート		A A A		A			
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート		A A A		A			
			スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。		・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート		A A B		B			
	④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。		・教師アンケート ・児童生徒アンケート		A A		B			
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。		・教師アンケート ・児童生徒アンケート		A B					
	(成果と課題) 生徒指導主事が発行している通信が好評で、保護者や学校運営協議会の方々も楽しみにされている。発行回数も多く、様々なテーマを取り上げているため、様々な指導に生かすことができた。また、学級担任や部活動顧問が生徒の変容に気づき、親身になってすばやく対応できたことが肯定的な評価につながっていると思われる。											
	(改善策等) スクールカウンセラーが来校した日に相談しに行く生徒がいる反面、利用できることを理解できていない生徒がいたため、カウンセラーだよりが発行される日や学期はじめなど、折に触れて学級担任等が話題にするようにしたい。											

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	D	D
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	D	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(梓を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
				休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクール・サポート・スタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
	(成果と課題) スクール・サポート・スタッフや地域学校協働活動支援員のサポートの力は大きく、業務改善につながった。それでもまだ、超過勤務時間が80時間を超えている教員が約半数おり、その解消が難しい。部活動運営については、昨年度と比較すると休日の設定や指導時間においては業務改善は進んでいる。					
(改善策等) 多忙を極める中でも、教職員間で雑談ができたり、仕事のサポートをし合ったりすることで、多忙感の軽減や仕事の充実感に繋がるようチームワークを大切にしていきたい。休暇を取りやすい雰囲気を作り、働きやすく、働きがいあふれる職場を目指したい。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	B
				・教師アンケート	B	
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	(成果と課題) 各種通信やホームページで、積極的に情報発信できた。特に生徒指導通信は様々な情報を提供しており、学校運営協議会の方々にも好評だった。					
(改善策等) 後期は、学校運営協議会の中で、明るい未来につながるようなテーマで、生徒と地域の方が一緒になって話し合いができる場を設定したい。また、現在は一部の教職員のみが参加しているが、年間通して一人1回は参加するようにし、地域の方々の思いや願いを聞いたり、学校の現状を直接届けたりできるようにしたい。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満